

～ 瑞穂町郷土資料館 けやき館・社会教育施設 耕心館 ～

東京都西多摩郡瑞穂町は、狭山市から国道16号を西に向かい、入間市を通過したところに位置している街で、東に狭山丘陵が広がり、南側には在日米軍横田基地がある。東京狭山茶の産地としても知られている。瑞穂町に入り16号の富士山交差点を少し南下したところに見えてくるのが、今回訪問した瑞穂町郷土資料館「けやき館」と社会教育施設の「耕心館」である。



シンボルの日本おおかみ像と「けやき館」



「耕心館」



「耕心館 母屋」

「けやき館」は瑞穂町の歴史や文化、自然について学ぶことができる施設で、多目的室や展示ギャラリーもあり、各種の講座や住民参加型のイベントにも活用されている。一方「耕心館」は、江戸末期に築造された、旧富士山村の豪農細瀧家の母屋が原型となっていて、時代や事業に応じて手を加えられた和洋折衷様式の独特な建築美を味わえる。現在は瑞穂町の所有となっており、庭園を見ながらお茶や食事を楽しんだり、2階の大広間で定期的に行われるサロンコンサートや展覧会を楽しむことができる。

「けやき館」でまず目を奪われたのは『バーズアイ瑞穂』。縮尺1/1000の航空写真がロビーの床一面にプリントされていて、瑞穂町とその周辺を俯瞰する事ができる。不老川の源流がこの地にあるなど、案内していただいた学芸員の北爪副館長の詳しい説明を聞いていると興味は尽きない。



バーズアイ瑞穂(部分)

常設展示のテーマは「瑞穂の自然と歴史」で、子どもたちが興味を持てるような、分かりやすく変化に富んだ展示がされていた。特に、狭山丘陵の雑木林の一日を光と音で表したジオラマや、プロジェクションマッピングを使った『瑞穂周辺の地形の変化』展示などが目を惹いた。



村山大島紬と多摩だるま

また、地域の伝統産業である村山大島紬や多摩だるま、東京狭山茶については詳しく解説されていて、伝統工芸の継承に町全体で力を入れている様子が良く分かった。

訪問した1月4日は開館10周年記念企画展として「大海道 細瀧家展」が開催されていた(大海道は屋号)。展示では細瀧家旧蔵資料から、細瀧家や元狭山地区の移り変わりが紹介されていた。細瀧家は近世・近代にかけて村政にも深く携わり、広く事業を行っていたようで、「けやき館」・「耕心館」も細瀧家の敷地に建てられている。

「けやき館」の見学を終えた後、隣の「耕心館」も案内してもらい、館内のレストランで昼食をとった。レストランは地元の常連客で賑わっており、憩いの場所となっているようだった。庭には沢山の山野草が栽培されているとのことで、花の咲く季節に再訪したいと思った。

文責：小川忠史